

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [27830] 抗リン脂質抗体 (APL) パネル

受託開始日

- 令和2年9月1日(火)



抗リン脂質抗体 (APL) パネル

抗リン脂質抗体症候群 (APS) は、血中の抗リン脂質抗体 (aPL) により多様な病態を引き起こす自己免疫疾患群です。APSはaPLにより血液が凝固傾向になり、動静脈血栓症や流産・不育症などの妊娠合併症の原因となる後天性血栓性素因と定義されています。

APSには単独で発症する原発性と自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス (SLE) に合併するものがあり、その比率はほぼ半々と考えられています。aPLの主要対応抗原は、陰性荷電を持つリン脂質と結合した β 2グリコプロテインI (β 2GPI) とプロトロンビンであることが明らかになっており、診断用検査手法としては抗体自体を測定する免疫学的方法と、ループスアンチコアグラント (LAC) を凝固時間の延長により検出する機能的方法に大別されます。

免疫学的方法によるaPLの抗体系検査には抗カルジオリピン抗体 (aCL) や抗 β 2GPI抗体などがありますが、従来保険適用されたものはaCL IgGのみであったため、総合的な評価が困難であるという側面がありました。

本検査は主要なaPLをアイソタイプ別にパネル検査として抗カルジオリピン抗体IgGとIgMおよび抗 β 2GPI抗体IgGとIgMの4項目を同時に測定するもので、2020年7月に保険適用となりました。これにより、国際血栓止血学会が定める分類基準および難病情報センターが定める診断基準に沿った検査が可能となり、これらを一連で測定することはAPSの診断に有用と考えられます。

検査要項

項目コード	27830
検査項目名	抗リン脂質抗体 (APL) パネル
検体量	血清 0.6mL [容器番号：01番→02番]
保存方法	凍結
検査方法	CLIA
基準値	20.0 U/mL 以下
所要日数	3~6日
報告様式	抗CL IgG 抗CL IgM 抗 β 2GPI IgG 抗 β 2GPI IgM ※4種の抗リン脂質抗体をご報告いたします。
検査実施料	696点 ^{*1,2} ([D014] 自己抗体検査「27」抗カルジオリピン抗体 232×3回分)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	*1：抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、抗カルジオリピン抗体および抗 β 2グリコプロテインI抗体の測定を行った場合に、抗カルジオリピン抗体の所定点数の3回分を合算した点数を準用して一連の治療につき2回に限り算定できます。 *2：抗カルジオリピン β 2グリコプロテインI複合体抗体、抗カルジオリピン抗体、および本検査のいずれか2つ以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

参考文献

出口雅士, 他：産科と婦人科 87 (suppl)：230-235, 2020.
渥美達也：腎と透析 84 (4)：572-578, 2018.